

令和7年度

第43回宮城県中学校長会研究協議会

# 東部大会

■ 期日：令和7年10月8日（水）

■ 会場：マルホンまきあーとテラス



石巻市 石ノ森漫画館 川開き祭りの花火



登米市 長沼フートピア トヨタテツの丘公園



東松島市 ブルーインパルス



女川町 出島架橋（令和6年12月19日開通）

## 目 次

|                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 大 会 要 項                         | 1               |
| 挨拶                              | 3               |
| ・大会会長                           | 宮城県中学校長会長 佐々木 晃 |
| ・大会実行委員長                        | 千葉 正人           |
| 研 究 発 表                         |                 |
| ・「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」【北部地区】 | 5               |
| 記 念 講 演                         | 11              |
| 研究協議会の歩み                        | 13              |
| 大会役員名簿                          | 18              |

### 第 43 回 宮城県中学校長会研究協議会東部大会要項

- 期日 令和 7 年 10 月 8 日（水）
- 会場 マルホンまきあーとテラス（石巻市開成 1－8）
- 主催 宮城県中学校長会
- 主管 東部地区中学校長会
- 後援 宮城県教育委員会  
石巻市教育委員会 登米市教育委員会  
東松島市教育委員会 女川町教育委員会

#### 1 研究主題

「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」

#### 2 開催趣旨

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われている。様々な課題への対応が求められる中、教育の果たす役割はますます大きくなっており、第 4 期教育振興計画では 2040 年以降の社会を見据え、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げている。私たち校長は、経営者として、常に今と未来を見据え、確かな理念の下に学校経営方針を立て、力強く学校経営を進めていかなければならない。

こうしたことを踏まえ、本大会では研究主題として「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」を掲げ、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革に努め、我が県の中学校教育の充実発展を期するものである。

### 3 日程

12:30    13:00            13:20    13:30                            14:30    14:40                            16:00            16:10

|    |      |    |      |    |      |      |
|----|------|----|------|----|------|------|
| 受付 | 開会行事 | 準備 | 研究協議 | 準備 | 記念講演 | 閉会行事 |
|----|------|----|------|----|------|------|

#### 【開会行事】

- |           |         |            |         |
|-----------|---------|------------|---------|
| (1) 開会宣言  | 大会実行委員長 | 東部地区中学校長会長 | 千葉 正人   |
| (2) 挨拶    | 大会会長    | 宮城県中学校長会長  | 佐々木 晃   |
| (3) 祝辞    | 石巻市長    |            | 齋藤 正美 様 |
| (4) 来賓等紹介 | 大会副会長   | 本吉地区中学校長会長 | 村上 敬子   |
| (5) 諸連絡   |         |            |         |

#### 【研究協議】

- (1) 発表者，司会者，記録者の紹介  
 (2) 研究発表・協議

| (発表地区)<br><br>北部 | 発 表 題                                  |                         |                        |
|------------------|----------------------------------------|-------------------------|------------------------|
|                  | 「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」               |                         |                        |
|                  | 発表者                                    | 司会者                     | 記録者                    |
|                  | 色麻町立色麻学園<br>岩淵 謙<br>栗原市立栗駒中学校<br>加藤 純一 | 大崎市立岩出山中学校<br><br>佐藤 広章 | 大崎市立田尻中学校<br><br>青木 康子 |

- (3) 意見交流  
 テーマ「自校の教員の育成のために実践していること」

#### 【記念講演】

- |          |         |                        |
|----------|---------|------------------------|
| (1) 講師紹介 | 大会実行委員長 | 千葉 正人                  |
| (2) 講演   | 演題      | 「新しい未来 新しい自分」          |
|          | 講師      | スポーツジャーナリスト<br>中西 哲生 氏 |

#### 【閉会行事】

- |          |          |            |         |
|----------|----------|------------|---------|
| (1) 挨拶   | 大会副会長    | 北部地区中学校長会長 | 佐藤 仁    |
| (2) 閉会宣言 | 大会副実行委員長 |            | 二階堂 順一郎 |
| (3) 諸連絡  |          |            |         |

## 大会会長挨拶

宮城県中学校長会

会長 佐々木 晃

体温並みの暑さに晒され、命の危険さえ感じられた今年の夏がようやく終わり、滔々と流れる旧北上川に、秋の爽やかな潮風がそよぐ季節となりました。

石巻の「まき」と芸術の「アート」を組み合わせた、復興のランドマーク「マルホンまきあーとテラス」において、本日、会員の皆様全員にお集まりいただき、第43回宮城県中学校長会研究協議会東部大会を開催できますことを心より感謝申し上げます。

戦後80年を迎える中、今年の夏は戦争に関する様々なイベントや報道、特集記事、番組などを例年になく見聞きする機会がありました。長い戦後の継続は私たちの願いです。しかし、世界に目を向ければ、核兵器使用の可能性をこれほど意識したことはないように感じます。そのような国際情勢の不安定化に加え、生成AIの急速な普及、新たな感染症の蔓延、加速する少子化の問題、予想を超える大幅な気候変動による大災害の発生など、正にVUCA時代と言われるように、私たちが経験したことのない状況に直面しています。

このような中、教育現場では、コロナ禍という未曾有の危機をチャンスに変えるため、「令和の日本型学校教育」を立ち上げ、その実現に向け取り組んでまいりました。この状況は今後も続き、その難しさも増していくことでしょう。だからこそ、全県から校長が一堂に会し、他地区の特色ある取組などを知り、意見交換ができるこの研究協議会は、視野を広げ、自身の学校経営に生かすための大きなヒントを得られる、大変有意義な機会だと考えます。

本大会の研究主題は「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」です。これは、変化が激しく、不確実性、複雑性、曖昧性が一層増すVUCA時代をたくましく生き抜く人材を育てようという強い決意が込められています。本大会は、昨年度から引き続き半日開催となりますが、研究協議をさらに深めるため、今年度から発表を一地区に絞って行うことといたしました。本日の発表は、人材育成に直接携わる教師集団をどのように育てるかという、正に大会主題に合致した内容です。活発な意見交換が行われることを期待しています。

講演では、「いしのまき観光大使」も務められている、元サッカー選手で現在はスポーツジャーナリストとして多方面で御活躍の中西哲生様から「新しい未来 新しい自分」と題して、貴重なお話を伺います。未来を担う生徒の教育をリードする立場の私たち校長にとって、多くの示唆に富んだお話を伺えることを大変楽しみにしております。

結びに、本大会の開催にあたり、企画、準備、当日の運営まで御尽力いただきました東部地区校長会の皆様、そして発表を御担当いただきます北部地区校長会の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。また、格別の御支援と御協力を賜りました宮城県教育委員会、石巻市教育委員会、登米市教育委員会、東松島市教育委員会、女川町教育委員会、その他関係機関の皆様にも重ねて御礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 開 催 に あ た っ て

東部大会実行委員会

委員長 千葉 正人

宮城県中学校長会の皆様、ここ東部地区は、「太平洋と北上川に育まれた日高見（ひたかみ）の国」石巻市、「あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ」登米市、「風わたる 青の国へ」東松島市、「あたらしいスタートが世界一生まれる町へ」女川町の3市1町からなり31の中学校があります。

会場のマルホンまきあーとテラスは家や煙突を組み合わせたような外観が特徴的で、石巻市が東日本大震災の復興のシンボルとして、2021年（令和4年）4月に完成した複合文化施設です。「まきあーと」とは、石巻の「まき」と芸術を表す「アート」を合わせた名称になっています。中は大きく「ホール」「石巻市博物館」「研修室」に分かれています。入り口付近にはキッズルームやカフェもありますので、本日も含め機会があればぜひお立ち寄りください。

さて、この度、第43回宮城県中学校長会研究協議会を東部地区で開催できますことは、私たち当地区中学校長会にとっては大きな喜びです。前回の東部地区大会は、令和2年の開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため誌上発表でした。本年度、こうして、東部地区で開催できることをうれしく思っています。

第76回総会で、私たちは、「東日本大震災による被災からの再生と全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上に立って、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託に応える決意である。」と宣誓しました。また、「社会を生き抜く力」、「よりよい社会を形成する力」、「特色ある教育課程を編成・実施・評価改善」、「確かな学力の定着」、「豊かな心と健やかな体の育成」、「教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚」、「家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校」、「人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実」、「教育水準の維持向上」、「働き方改革の推進」、「防災教育・安全教育の一層の充実」と決議し、実現に向けて取り組んでいるところです。私たちは一致団結して、これまで積み上げてきた学校教育の良さを継承しつつ、予測不可能な時代をたくましく生き抜く資質や能力を育んでいかなければならないと思っています。

「学校は子どもたちの可能性を見付け伸ばす場所であり、家庭は子どもたちの夢を信じられる場所であり、地域は子どもたちが将来の夢を描くフィールドであってほしい」と願っています。

東部地区中学校長会では、本研究協議会が会員の皆様の期待に応えられるように準備を進めてまいりましたが、不行き届きな面が多々あるのではないかと案じております。なにとぞ会員の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催にあたって御支援いただきました石巻市長様をはじめ、宮城県並びに石巻市、登米市、東松島市、女川町の教育委員会の皆様、関係機関の皆様、県中学校校長会長様をはじめ役員の皆様、さらには、発表地区の皆様に衷心より感謝を申し上げます。実行委員長の挨拶とします。

## 研究主題

# 「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

～教職員集団の総合力を高める校長の組織マネジメントの在り方～

北 部 地 区

## 1 研究の趣旨

今日、人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた「Society5.0時代」が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

同時に、「予測困難な時代」であり、新型コロナウイルス感染拡大等、一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。新型コロナウイルス感染症の影響は広範で長期にわたるため、感染収束後の「ポストコロナ」の世界は、新たな世界、いわゆる「ニューノーマル」に移行していくことが求められている。

そのような中、令和3年1月 中央教育審議会答申において「令和の日本型学校教育の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が示された。その答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育の姿」が示され、同時にその姿が実現されるための「教職員の姿」や、「教師の養成・採用・研修の在り方」が示されている。

多様化する課題の中で、答申に示されている「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている」「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている」「子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」教員を教職員集団としての総合力を高めるマネジメントを通しながら、いかに育成するかを探るため、本主題を設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 研究目標

本地区における教員の育成はどのようにあるべきか、より実践的で効果的なマネジメントの在り方を探り、学校経営の充実に資する。

### (2) 研究計画

| 年度           | 内 容                                               |
|--------------|---------------------------------------------------|
| R 5<br>(1年目) | ・研究の方向性の確認及び計画立案<br>・実態調査の実施①<br>・調査結果の分析、考察      |
| R 6<br>(2年目) | ・実態調査の実施②<br>・調査結果の分析、考察、検証<br>・各校の状況や実践事例の集約     |
| R 7<br>(3年目) | ・昨年度までの取組、実践の共有<br>・研究の成果と課題の整理<br>・次年度の研究の方向性の確認 |

## 3 研究の方法及び目的

教員の育成に関する実態調査及び結果分析から本地区の現状を明らかにして、今後の学校現場における教員の育成への提言を行い、学校経営の一助とする。

## 4 研究の実践

### (1) R 5年度（1年目）

実態調査と結果の考察

【実態調査】対象：地区内校長及び教員

- ① 校長が感じている「教員に身に付いていると思われる資質能力」と教員自身が感じている「今後、身に付けたい資質能力」との乖離について
- ② 多様化する学校教育課題と教員育成上の課題について

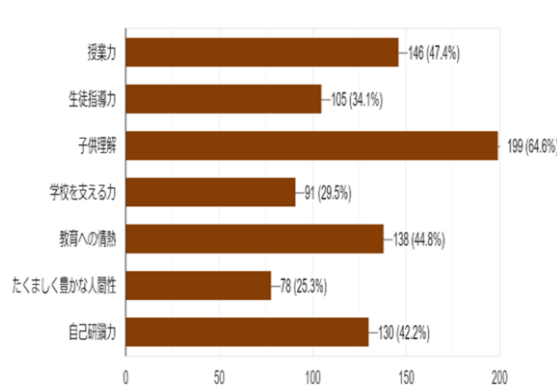
・対象教員の教職経験段階

| 教職経験段階              | 回答 308 件 |
|---------------------|----------|
| 第Ⅰ期(新規採用時) 0 年      | 6.5%     |
| 第Ⅱ期(基礎形成期) 1～5 年目   | 22.7%    |
| 第Ⅲ期(資質成長期) 6～10 年目  | 19.5%    |
| 第Ⅳ期(基礎充実期) 11～20 年目 | 13.3%    |
| 第Ⅴ期(深化発展期) 21 年目以上  | 38.0%    |

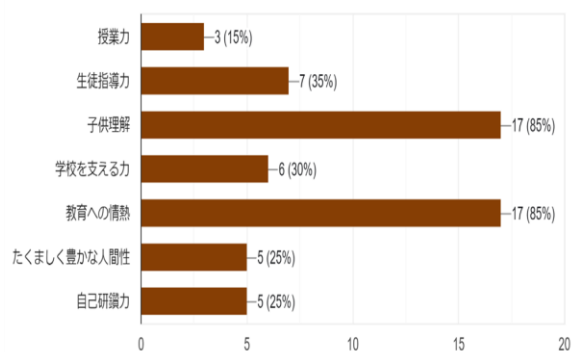
〈 質問 1 : 教員に身に付いていると思われる資質能力 〉

※ 資質能力 : みやぎの教員に求められる資質能力

・教員回答

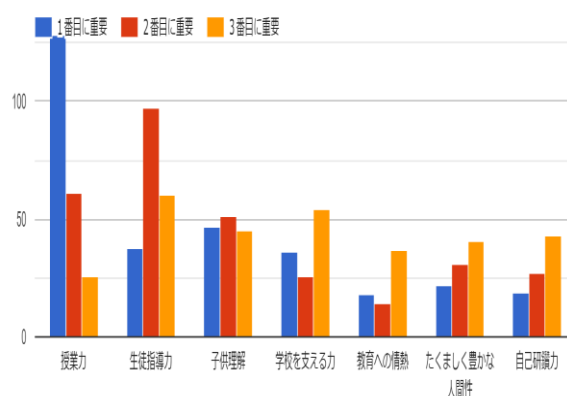


・校長回答

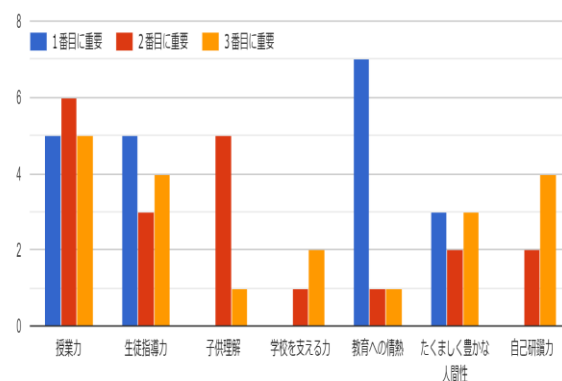


〈 質問 2 : 今後身に付けたい (身に付けさせたい) 資質能力 〉

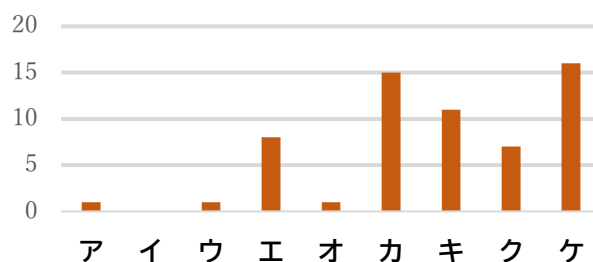
・教員回答



・校長回答

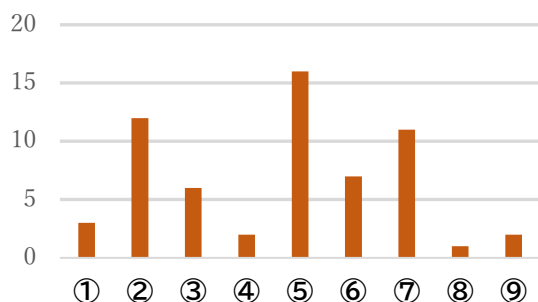


〈 質問 3 : 校長が感じている学校課題 〉



- ア 特別支援学級の生徒数の増加  
 イ 外国人生徒数の増加  
 ウ 貧困率や虐待等の問題の複雑化  
 エ いじめ・不登校生徒数の増加  
 オ 生徒数の減少  
 カ 教職員不足, 働き方等  
 キ 保護者の価値観の多様化  
 ク 学力の二極化  
 ケ 配慮を要する生徒数の増加

〈 質問4：校長が感じている教員の育成上の課題 〉



- ① 授業技術の伝達
- ② 生徒指導技術の伝達
- ③ 常識的な言動の指導
- ④ コンプライアンスの遵守
- ⑤ 主任やミドルリーダー層の育成
- ⑥ 初任層への指導
- ⑦ ベテラン層のモチベーションの維持
- ⑧ 研修時間の確保
- ⑨ ICT を使いこなす技術

【考察】

質問1の回答で、校長、教員ともに割合が高かったのは、「子供理解」である。教員が日常的に「生徒に寄り添う」ができているということの表れではないかと推察する。

質問2の回答でかい離が大きかったのは「教育への情熱」であった。校長は、最も必要な資質能力であると感じているが、教員の回答の割合は低い。

なお、「授業力」については教員の多くが身に付いていると回答するものの、今後身に付けたいとも回答し、校長も身に付けさせたいと感じている。令和の日本型学校教育で求められる授業スタイルの確立に向け、その必要性を強く感じている結果であると推察した。

学校課題として「配慮の必要な生徒の増加」、 「教職員不足」、教員の育成上の課題として「主任層やミドルリーダーの育成」と回答する校長が多かった。

本調査の結果について地区校長会で周知するとともに、教員の育成のための、より実践

的で効果的なマネジメントの在り方について次年度の研究を推進していくことで共通理解を図った。

(2) R6年度（2年目）

昨年度の調査結果を踏まえ、各校の学校課題を解決するための取組や教員の育成上の取組を集約し、その実践例を紹介することで学校経営の一助とする。

【実態調査】対象：地区内校長

① 学校課題を解決するための取組と効果

〈働きやすい環境づくり・良好な関係づくりの実践例〉

- ・「ウェル・ビーイング会議」「チーム会議」を実施したことで、学校運営への参画意識が高まった。
- ・「定時退庁日宣言（定時退庁日を自由に決めて宣言して帰宅）」を取り入れたことで、計画的な仕事のやりくりができるようになった。
- ・職員会議前の短時間で「MAP」を実施。互いの新たな面についての発見や人間関係の構築に役立った。
- ・いつも笑顔で、明るい挨拶を心掛けている。先生方もお互いに明るい挨拶をしている。
- ・アンケート調査をもとに、職場の課題等を共有し、改善策について職員全体で話し合った結果、全体で効率的な会議の進め方や定時退庁日等を設定していくことを決め、現在実践中である。
- ・定期的に職員と面談し、職員の率直な思いを聞くように努めたことで、働きやすい職場になっているという声が多く寄せられるようになった。
- ・現職教育の一環としてレクリエーションを実施した。職員室の雰囲気が明るくなった。
- ・テスト期間中のレクリエーション（体育館で球技）を実施した。特に、若手教員のまとまりの良さにつながった。

- ・放課後を利用して職員レクリエーションを行ったり、中総体前に職員チームと生徒との壮行試合を行ったりした。その結果、職員間のコミュニケーションが増え、同僚性も向上した。

- ・方（かた）のやりがいにもつながっていると感じている。
- ・学年主任は、毎週1回の教務部会において学校全体で取り組む方向性を確認したり、学年行事に関する協議を行ったりしている。

#### 〈校内研究・研修の充実に関する実践例〉

- ・協働での授業づくり（チーム）で授業力の向上につながっている。
- ・校内研究のチーム分けを日常の取組とリンクさせ、そのチームリーダーを若手（3年目～7年目）の教諭にし、ベテラン層はアドバイス役として支えるというもの。若手のアイディアを全員で支えることで、日常の取組が学年に偏らず、学校全体としての実践ができるようになった。
- ・「先輩の話を聞く会」を実施したことで、教員同士のつながりが深まった。教員の隠れた才能を垣間見ることもできた。

#### 〈校務分掌等の工夫に関する実践例〉

- ・校務分掌の中で、研究主任と防災主任を若手教員にしたところ、新しい取組に挑戦しようという職員室の雰囲気生まれた。
- ・校務分掌の所属部会を明確化し、部会ごとに企画・検討することで、主任クラスの負担軽減と若手人材育成を進めている。所属部意識が高まり学年を越えて相談しながら校務運営に携われる状況（雰囲気）をつくり出している。
- ・会議の精選を行う中で、新たに「別室登校教室会議」を設定したところ、別室を利用する生徒の情報共有がスムーズになった。
- ・若い先生方の考えを積極的に取り入れるため、運営委員会のメンバーを分掌部各部長としている。この取組を通して、若い先生方が中心となって分掌部の話し合いを行ったり、実行委員生徒と一緒に検討し先生方と生徒がともに考えたりしながら、各行事の内容を詰めるなど、これまでよりも生徒主体の取組を推進することができている。また、若い先生

#### ② 教員育成のための取組とその効果

##### 〈初任者層、主任層などの人材育成に関する実践例〉

##### ＜全体への働き掛け＞

- ・校長室便りや打合せ資料等の中で、学校運営に係る資料を提示した。
- ・校長室便りを発行し、学級通信の在り方、書き方、特別活動についてのアドバイス等を行った。資料等も例示したところ、活用が見られた。
- ・年度始めに、「学校経営方針」や「先生方にどのような考え方で子供と接し、育ててもらいたいのか」を明確に示した。結果、教職員が同じ意識で同じ方向に向かって教育活動を展開し雰囲気も明るくなった。責任を取るのには校長であることの明言により、教職員一人一人が自分らしくやれているのかもしれない。
- ・「学級担任会」を設定したことで、学級担任が自由に相談できる雰囲気づくりができるようになった。
- ・校長が具体的な職員の行動を提示することで共通行動が図られ、チームとして学校運営に携わる意識が全職員に生まれた。
- ・所属意識の高揚を図る工夫により、学年を越えた取組や相談、共通行動が図られた。
- ・短いスパンでの達成目標あるいは課題を一つ決めて、その解決に全員で取り組んだ。
- ・全体には情報の共有を繰り返し呼び掛け、組織的な対応を推進している。
- ・給食の時間に担任を入れ替える「誰でも担任制」を、ある一定期間導入したことで、多くの目で子供たちを見ることができ、生徒指導の視野が広がった。
- ・「チーム担任制」を導入し、多くの目で学年

の生徒を見る体制を構築した。

- ・まずはとにかく見る（見てあげる）ということ。しかし、多くは語らないことである。どうしても必要と思った時には、一対一で話をする。その際にも、内容的には厳しいことであっても、そう思わせないような雰囲気づくりと伝え方に気を付けている。
- ・個別面談を通した意図的な働き掛け（校長として、その先生に期待することを具体的に述べること）によって、先生方のモチベーションの維持・向上につながっていると思う。

#### <初任者層への働き掛け>

- ・初任層には、ベテラン層とペアを組ませ校務分掌のチーフを任せることで、OJT教育を推進している。
- ・初任1年目の教諭に対し、OJTを活用し普段から働き掛けている。複数の先生方が役割を越えて育てていこうとする雰囲気が見られた。
- ・初任者の授業参観を行い、授業づくりについての話合いの機会を設けている。
- ・初任3年目教員に、主に授業づくりに関する県外研修の機会を与えている。また、新卒採用教員には、学年主任や中堅教員と一緒に学級経営に当たる体制を一定期間とすることで、円滑な学級経営を目指している。夏休みの三者面談も学年主任等と一緒に実施することで、保護者との良好な関係づくりを目指している。

#### <主任・ミドルリーダー層への働き掛け>

- ・個々の特性を見極め、研究主任や学年主任等、学校運営の中核をなす校務分掌に積極的に登用し、育成を図っている。
- ・若手中堅層には、分掌部の中心としての役割を担ってもらっている。また、主任層には、学年経営とともに、所属教員の状況を気に掛け、積極的に声掛けをお願いしている。
- ・主任層の先生方と連携を図り、意見を聞きながら、経営目標を達成できるよう支援してい

る。

- ・管理職等選考受験者に対する研修を行ったことで、根拠をもって業務に当たる姿勢が見られるようになった。
- ・教育法規、学校経営等の話題提起を行った。

#### <今後、取り組んでみたい方策>

- ・働き方改革プロジェクトチームを結成し、ワークショップを行う。現在の働き方を見直し、よりよい働き方や教育活動の展開が図られるような具体的な取組を提案していく。
- ・現在行っている初任者層へのOJT、主任・ミドルリーダー層の学校運営の中核をなす校務分掌への積極的登用を更に図っていきたい。
- ・ミドルリーダー向けの研修を実施し心構えや期待していることについて講話をした後、情報交換させ意欲の向上につなげたい。
- ・初任層から新しい学校行事等の企画を提案させて、チーフとして実践させる。
- ・子供たちが学ぶ楽しさや面白さを味わうことができるような授業づくりについて、全校で取り組んでいく。全員で取り組むというところに重点を置いていきたい。
- ・職員会議後の10分間で「先輩の話を聞く会」を実施したい。
- ・外部講師を招いてのリーダー研修会等を実施したい。

#### 【考察】

学校課題の解決に向けて、学校全体で課題を共有し、組織として解決に当たっている取組が多く見られた。また、組織としての機能を最大限に発揮するために、レクリエーションやMAP等、縦だけでなく横のつながりも充実させる良好な人間関係作りを目指した取組も見られた。

教員の育成に向けては、校長による全体または個人への働き掛けによって、職員のモチベーションの向上につなげたり、中堅層の教員を中核的な校務分掌に積極的に登用することで、校内の活性化を図ったりといった取組

が見られた。また、OJTの活用や「誰でも担任制」「チーム担任制」等、複数の教員でフォローすることで初任層の育成を図った取組も見られた。

### (3) R7年度（3年目）

- ① 2年目までの取組、実践の共有
- ② 研究の成果と課題の整理

〈2年目までの調査、考察について〉

○実践事例は参考になりましたか

とても参考になった（55.6%）

参考になった（44.4%）

○取り組んでみたい実践事例はありましたか

あった（88.9%）

特になかった（既に実践しているため）

（11.1%）

〈参考にしたい取組について〉

- ・チーム担任制
- ・別室登校教室会議
- ・働き方改革プロジェクトチーム（チームによる企画・検討）
- ・先輩の話を聞く会
- ・現職教育の一環としての職員レクリエーション
- ・「どの方策」をというよりも、校長としての構え、心掛けといった面で参考になっている。学校事情や教師の実態が異なる中、より良い判断や実践を仕組むうえで校長の姿勢の部分がより重要であると考え。

〈その他の実践事例〉

- ・学校経営サークルを開催し、同じ悩みや教科指導などについて共有することで、個々の指導力向上につながった。任意の参加方式で負担なく行えた。
- ・現在、取り組んでいるのは「開かれた校長室」である。廊下からのドアも職員室からのドアもよほどのことがない限り開けっぱなしにしている。教職員、生徒ともに、さほど遠慮することなく「校長先生！」と入ってきている。

- ・今年度から、心のケアハウスのサテライト方式による相談・学習支援をお願いしている。個別の学習支援により効果が上がっている生徒がいる反面、人と接することが苦手な生徒にとってはややプレッシャーに感じている者もいる。心のケアハウスのコーディネーターを交えてのケース会議を設定できればと考えている。

〈新たに取り組んでみたいと思っていること〉

- ・複数教員のローテーションでの道徳授業
- ・教員育成のための主体的な学習会の実施
- ・スムーズな情報共有のための職員ポータルサイトの充実
- ・小中連携、中高連携
- ・教職員一人一人との対話の充実
- ・「生徒が自ら学ぶ授業」への授業改善に向け、外部講師を招いてのファシリテーター研修会の実施
- ・働きがいを整えるカリキュラムマネジメント等の調整
- ・メンターチームを活用した現職教育研修

### 【3年間の成果と課題】

本研究を通して、多くの実践事例を集約することができた。各学校を取り巻く状況は異なっているが、「実践事例がとても参考になった、参考になった」との回答がほとんどであった。実践事例を知ること、それぞれの学校課題の解決や教員育成のための手立てにつなげることができたのではないかと考える。

また、実態調査のたびに実践での好事例や新たな方策など、多くの情報が寄せられた。自校の学校運営や教員の育成に課題が生じても、寄せられた情報が解決の糸口につながるケースもあり、改めて校長同士のつながり、コミュニケーションの大切さを実感する機会となった。

本研究での取組を生かしながら、今後も、多様化する学校課題に対応できる教員を育成するため、校長としてのリーダーシップを発揮し、教職員集団の総合力を高めるための組織マネジメントに尽力していきたい。

## 記念講演

# 「新しい未来 新しい自分」

スポーツジャーナリスト/パーソナルコーチ なかにし てつお  
**中西 哲生 氏**

### <プロフィール>



1969年9月8日 愛知県名古屋市出身。同志社大学を経て、1992年に名古屋グランパスエイトへ入団。1995年シーズンには、アーセン・ベンゲル監督の下で天皇杯優勝。1997年、当時JFLだった川崎フロンターレへ移籍。1999年には主将としてJ2初優勝、J1昇格に貢献する。2000年末をもって現役を引退。現在はスポーツジャーナリストとして活動し、TBS「サンデーモーニング」、テレビ朝日「Get Sports」などのテレビ番組でコメンテーターとして出演するほか、TOKYO FM「中西哲生のクロノス」ではラジオパーソナリティーを務める。

サッカー、スポーツの普及に各方面で尽力している。2022年に「いしのまき観光大使」に就任。

### <出演>

#### ■テレビ

「サンデーモーニング」TBS テレビ（日曜不定期 8:00～9:54）

「GET SPORTS」テレビ朝日（日曜不定期 24:45～26:25）

#### ■ラジオ

「TOKYO TEPPAN FRIDAY」TOKYO FM（金曜 15:00～16:50）

### <その他>

いしのまき観光大使

出雲観光大使

川崎フロンターレクラブ特命大使

筑波大学蹴球部テクニカルアドバイザー

[illegible]

# 研究協議会の歩み

## 第1回 昭和49年 古川市民会館

- |                                                |        |       |
|------------------------------------------------|--------|-------|
| (1) ゆとりある教育課程                                  | 仙台・第一中 | 吉田 常一 |
| (2) 望ましい運動部活動の在り方                              | 北 上 中  | 遠藤信一郎 |
| (3) 変動する地域社会の実態に即した学校経営<br>～「家庭教育のしおり」の作成を通して～ | 西小野田中  | 白井 清源 |

## 第2回 昭和50年 角田市民センター

- |                                               |        |       |
|-----------------------------------------------|--------|-------|
| (1) ゆとりある教育課程                                 | 仙台・第一中 | 吉田 常一 |
| (2) 中学校教育と家庭教育との連携について<br>～「家庭教育のしおり」の作成を通して～ | 賀美石中   | 星 二郎  |
| (3) 登米地区教育研究所の構想について                          | 錦 織 中  | 須藤 俊夫 |

## 第3回 昭和52年 矢本第二中学校

- |                             |       |       |
|-----------------------------|-------|-------|
| (1) 学習塾に関する父母・教師の意識について     | 岩 沼 中 | 熱海畔四郎 |
| (2) 学校教育と家庭教育との連携（実践活動を中心に） | 金 成 中 | 高橋喜四郎 |
| (3) 新しい学校経営を目指して            | 西多賀中  | 三塚 清彦 |
| (4) 魅力に対する生徒と教師の傾向調査とその分析   | 須 江 中 | 阿 部 宏 |

## 第4回 昭和54年 亘理中央公民館

- |                                           |       |       |
|-------------------------------------------|-------|-------|
| (1) 移行期における学校経営の諸問題<br>～昭和53年・54年の歩みの中から～ | 唐 桑 中 | 小野寺昭一 |
| (2) 創意に満ちた学校経営の展開                         | 西 根 中 | 橋 本 進 |
| (3) ゆとりある充実した中学校経営を目指して                   | 松 山 中 | 清原 通雄 |
| (4) ゆとりある充実した中学校経営<br>～地域社会の課題と中学校の役割～    | 東 和 中 | 片倉 敏雄 |

## 第5回 昭和55年 若柳中学校

- |                       |         |       |
|-----------------------|---------|-------|
| (1) 昭和56年度教育課程編成上の諸問題 | 岩 沼 北 中 | 松本 千秋 |
| (2) 新教育課程編成上の諸問題      | 小 竹 中   | 星野 郁夫 |
| (3) 新教育課程実施上の諸問題      | 金 成 中   | 村岡 祐喜 |
| (4) 新教育課程編成に関する問題点    | 三 条 中   | 及川 隆夫 |

## 第6回 昭和56年 中田町立中田中学校

- |                                                    |         |       |
|----------------------------------------------------|---------|-------|
| (1) 教育課程実施上の諸問題の解明<br>「創意に満ちた学校経営の展開～ゆとりの時間の生かし方～」 | 白 石 南 中 | 佐 藤 信 |
| (2) ゆとりの時間の運営の工夫<br>～「創意の時間」を中心として～                | 南 郷 中   | 菅原 康夫 |
| (3) 地域教育の課題と中学校の役割<br>～進路指導における組織運営の在り方をめぐって～      | 石 越 中   | 菅原 伸  |
| (4) 中学校における生徒指導の充実をめざして                            | 月 立 中   | 大森 昭仁 |

## 第7回 昭和57年 気仙沼市民会館

- |                      |         |       |
|----------------------|---------|-------|
| (1) 教育課程の運営管理に関する諸問題 | 将 監 東 中 | 多 田 滋 |
| (2) 生徒指導上の諸問題        | 仙台・中田中  | 猪 俣 久 |
| (3) 教育課程実施の状況と諸問題の解明 | 大 原 中   | 千葉 俊一 |

## 第8回 昭和59年 女川生涯学習センター

- |                                 |       |       |
|---------------------------------|-------|-------|
| (1) 教育課程実施上の諸問題<br>～教科指導を通して～   | 一 迫 中 | 佐藤 典人 |
| (2) 生徒指導における協力・連携の在り方を求めて       | 豊 里 中 | 堀内 守正 |
| (3) 教育課程解決に迫る校長のリーダーシップはどうあるべきか | 月 立 中 | 山川隆太郎 |

## 第9回 昭和60年 ホテル白萩

- |                                                |       |       |
|------------------------------------------------|-------|-------|
| (1) 生徒指導上の諸問題と対策<br>～問題行動をもつ生徒の指導を通して～         | 七 郷 中 | 佐取 昭義 |
| (2) 教育課程実施上に伴う運営上の諸問題の解明<br>～学校教育目標具現化のための対策～  | 金ヶ瀬中  | 佐藤 信大 |
| (3) 学校運営上の諸問題とその対策<br>～教職員のモラルと教育力を高める方策とその実施～ | 南光台東中 | 今野 定亮 |

**第10回 昭和61年 白石市中央公民館**

- (1) 健全育成をめざす生徒指導の充実と対策…………… 鬼 首 中 君ヶ袋正昭  
 (2) 中学校における道德教育の現状とその充実…………… 新 田 中 及川 健三  
 (3) 教育課程解決に迫る校長のリーダーシップはどうあるべきか…………… 唐 桑 中 菅原 俊彦

**第11回 昭和62年 多賀城市文化センター**

- (1) 中学校における道德教育の充実を日指して  
 ～現状と対策～…………… 荻 浜 中 庄 司 隆  
 (2) 学校経営上の諸問題に対する調査  
 ～生徒心得の現状と意義について～…………… 船 迫 中 穴 戸 孝  
 (3) 教育課程運営上の諸問題  
 ～生き方指導の充実をめざす進路指導～…………… 愛 宕 中 半 澤 健

**第12回 昭和63年 古川市芙蓉閣**

- (1) 学校経営上の諸問題と対策  
 ～主体的経営参加を進める現職教育～…………… 色 麻 中 木村 強一  
 (2) 健全育成を目指した生徒指導の充実  
 ～生徒の開題行動と学校(校長)としての対策～…………… 名取・第二中 岩淵昌次郎  
 (3) 教育課程運営上の諸問題  
 ～望ましい運動部活動の在り方～…………… 金 成 中 菅 原 學

**第13回 平成2年 築館町農村改善センター**

- (1) 心豊かな人間の育成を図る学校経営  
 ～こころの教育と学校経営～…………… 袋 原 中 鶏徳 喜昇  
 (2) 教育課程実施に向けての諸条件の整備はどうあったらよいか…………… 松 岩 中 太布 善彦  
 (3) 健全育成を目指す生徒指導  
 ～登校拒否生徒の指導を通して～…………… 石 越 中 渡邊 政雄

**第14回 平成3年 迫公民館**

- (1) 教員の資質向上と教員養成  
 ～人的条件の現状と課題について～…………… 玉 川 中 青木 寛敏  
 (2) 地域社会に開かれた学校教育の創造…………… 古 川 中 只野 龍馬  
 (3) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 高 清 水 中 狩野 忠志

**第15回 平成4年 気仙沼市中央公民館・気仙沼市勤労青少年センター**

- (1) 心豊かな人間の育成を図る学校経営  
 ～心の教育と学校経営の改善～…………… 根 白 石 中 早坂 春一  
 (2) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 荻 浜 中 平塚 政和  
 (3) 教職員の資質の向上と校内研修…………… 遠 刈 田 中 佐藤 茂伸

**第16回 平成5年 矢本コミュニティセンター**

- (1) 活力に満ちた学校経営  
 ～全職員の経営参加を目指して～…………… 豊 里 中 渡邊 全恵  
 (2) 地域社会に開かれた学校教育の構造…………… 一 栗 中 佐々 敦  
 (3) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 日 吉 台 中 高橋 正義

**第17回 平成6年 仙台市青年文化センター**

- (1) 教育諸条件整備はどうあったらよいか…………… 条 南 中 千葉 靖哉  
 (2) 活力に満ちた学校の条件について…………… 栗 駒 中 佐藤 睦夫  
 (3) 教員の資質向上を目指して…………… 宮 中 佐々 武弘  
 (4) 進路指導の充実について…………… 加 茂 中 北村 英廣

**第18回 平成8年 柴田町槻木文化センター**

- (1) 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校の条件整備…………… 塩竈・第二中 大場 尚文  
 (2) 活力に満ちた学校経営を目指して…………… 色 麻 中 斎藤 義憲  
 (3) 個性の伸長を図る進路指導…………… 荻 浜 中 武田 政春

**第19回 平成9年 岩沼市公民館・総合体育館**

- (1) 教職員の資質能力の向上を図る研修の在り方…………… 桜 丘 中 千田 彰武  
 (2) 心豊かな生徒を育てる道德教育の推進…………… 東 和 中 佐 藤 彰

- (3) 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる条件整備  
～学校における危機管理の在り方を通して～…………… 村田第二中 宮田 尚夫

**第 20 回 平成 10 年 小牛田町文化会館・公民館・近代文学館**

- (1) 豊かな心を育てる道德教育  
～道德的実践を促進する指導の在り方～…………… 歌 津 中 大 場 勝
- (2) 豊かな心を育てる道德教育  
～道德教育推進状況の意識調査を通して～…………… 一 迫 中 小野寺邦義
- (3) 豊かな心を育てる道德教育 …………… 塩竈・第二中 阿部 邦彦

**第 21 回 平成 11 年 栗原文化会館**

- (1) 特色ある学校と条件整備  
～教職員の資質能力の向上を図る研修の在り方～…………… 沖 野 中 佐 藤 隆
- (2) 豊かな心を育てる道德教育の充実  
～教職員及び生徒に対する道德指導の推進～…………… 松 山 中 遠藤 玲子
- (3) 豊かな心を育てる道德教育  
～「心の教育」の充実を図る学校経営～…………… 渡 波 中 木村 民男

**第 22 回 平成 12 年 迫町「登米祝祭劇場」(水の里ホール)**

- (1) 教育改革を推進する『開かれた学校』づくり  
～校長の意識調査をとおして～…………… 白 川 中 舟山 幸枝
- (2) 豊かな心を育てる道德教育の充実  
～体験活動を通して～…………… 名取・第二中 島田 幸男
- (3) 豊かな学力を育てる学校の創造  
～校長としての対策とその実践～…………… 歌 津 中 佐藤 貞一

**第 23 回 平成 13 年 本吉町文化センター**

- (1) 開かれた学校づくり  
～推進のための条件整備～…………… 三 本 木 中 及森 三善
- (2) 「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむ教育  
～地域の特色を活かした学校経営をめざして～…………… 志 波 姫 中 酒井 和男
- (3) 基礎的・基本的な内容の確実な定着と個に応じた指導の充実を図るための校長のかかわりかた  
～教科等の指導計画の作成と授業改善をとおして～…………… 石 越 中 高 橋 健

**第 24 回 平成 15 年 矢本コミュニティセンター**

- (1) 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育…………… 塩竈・第三中 武田 光彦
- (2) 生きる力をはぐくむ、地域に根ざした学校づくり  
～「学校を開く」ことの意義と学校が進むべき方向性を探る～…………… 入 谷 中 鈴木 芳幸
- (3) 基礎的・基本的な内容の確実な定着と個に応じた指導の充実を図るための校長のかかわりかた  
～教科等の指導計画の作成と授業改善をとおして…………… 登 米 中 蜂谷 徳芳

**第 25 回 平成 16 年 仙台市メルパルク S E N D A I**

- (1) 教育課程の実施に係る経営上の諸問題  
～「総合的な学習の時間」の取組を通して～…………… 石巻・山下中 宍 戸 勉
- (2) 評価を生かし、確かな学力を身に付けさせる学校経営…………… 色 麻 中 山中 晴夫
- (3) 開かれた学校づくりと地域社会  
～第 3 年次学校評議員制度の実態調査から～…………… 丸 森 東 中 千 葉 純

**第 26 回 平成 17 年 宮城蔵王ロイヤルホテル**

- (1) 信頼される開かれた学校づくりを推進するに当たっての諸問題  
～学校評価と情報提供の在り方～…………… 南 光 台 中 阿部 英仲
- (2) 勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進  
～職場見学・職場体験学習の課題と今後の方向性を探る～…………… 栗 駒 中 門傳 忠實
- (3) 生徒一人一人の可能性を伸ばす評価の在り方…………… 入 谷 中 高橋 秀三

**第 27 回 平成 18 年 ホテル白萩**

- (1) 確かな学びを推進する指導の充実  
～普通学級に在籍する「気になる生徒」への学びの支援に果たす校長の役割～…………… 豊 里 中 熊野 充利
- (2) 総合的な学習の一層の充実  
～「総合的な学習の時間」と教科等の関連の重視にかかる調査から～…………… 荻 浜 中 原 吉 宏

- (3) 生きる力を育む指導と評価の充実  
～「確かな学力の育成」へ向けた各学校における取組の状況から～……丸森東中 小野寺 薫

#### 第28回 平成19年 大崎生涯学習センター(パレットおおさき)

- (1) 仙台市立中学校の「総合的な学習の時間」の実施状況  
～平成17年度「総合的な学習の時間」の国立教育政策研究所の実施調査との比較から～……広瀬中 國井 恵子
- (2) 開かれた学校づくりを目指して  
～平成16～18年度仙台管内中学校長会での調査を通して～……亘理・吉田中 阿部 清己
- (3) 学習状況調査結果の受止めとその活用……面瀬中 佐藤 亨

#### 第29回 平成21年 栗原文化会館(アポロプラザ)

- (1) 「確かな学び」を保障する指導の充実をめざして  
～大河原管内中学校長の意識調査の多面的な分析から～……丸森東中 高橋 教義
- (2) 創造的で特色ある教育課程の編成・実施の状況  
～教育課程に関する調査結果の分析を通して～……鶴谷中 平 昇
- (3) 特別支援教育の推進体制の整備を目指して  
～大崎地区中学校の実態調査の考察から～……田尻中 星 豪

#### 第30回 平成22年 登米祝祭劇場(水の里ホール)

- (1) 「確かな学び」を保障する指導の充実  
～学力向上に向けた各校の取組から～……花山中 半田 宏史
- (2) 教師力の向上を目指した研修の充実  
～「学校を支える力」の向上を目指して～……飯野川中 遠藤 勝則
- (3) 教師力の向上を目指した研修の充実  
～教師力・授業力向上に資する研究授業の在り方～……富谷第二中 本間 修

#### 第31回 平成23年 南三陸ホテル観洋

- (1) 第1分科会
- ① 大地震発生直後の対応……栗駒中 氏家 光彦
  - ② 避難所としての立ち上げ……将監中 小川 彰
  - ③ 生徒の安否確認と学校からの情報発信……唐桑中 村上 徹也
- (2) 第2分科会
- ① 避難所の運営……北上中 畠山 卓也
  - ② 避難所運営から学校の教育活動への移行……新月中 小野寺有一
  - ③ 正常な教育活動に向けての工夫……古川東中 吉田 和子
- (3) 第3分科会
- ① 被災校の現在の状況……丸森東中 菊池 卓郎
  - ② 被災校への支援・避難所の運営……登米中 武田 和義
  - ③ 被災校の現在の状況・情報の管理と発信……閑上中 高橋 澄夫

#### 第32回 平成24年 ホテル大観荘

- (1) 教師力の向上を目指した研修の充実を図る取り組み  
～実践事例の考察を通して～……村田第二中 青田 穰
- (2) 創造性豊かで使命感に満ちた教職員の育成を目指して  
～授業力向上に資する校内研修の在り方～……東向陽台中 吉川 隆行
- (3) これからの安全教育の在り方  
～震災から見えてきたもの～……宮崎中 相澤 成信

#### 第33回 平成26年 蔵王町ふるさと文化会館

- (1) 心身共に健やかな生徒を地域全体で育む教育の充実  
～企業教育を通じた実践事例から～……栗駒中 伊藤富久男
- (2) 体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の充実  
～各学校の特色を生かした取組を通して～……新田中 岩渕 幸市
- (3) 東日本大震災から学んだこと  
～明日への提言～……本吉地区校長会研究部

#### 第34回 平成27年 岩沼市民会館・中央公民館・岩沼市総合体育館

- (1) 健やかな心身を育成するための安全教育の在り方  
～災害安全を中心とした取組を通して～……河南東中 山田 晴彦
- (2) 大河原地区の防災教育の充実……槻木中 永山 晋

- (3) 教師力の向上を目指した取組の充実  
 ～学校を支える力を身に付けさせる具体的な施策～…………… みどり台中 鈴木 久直

平成 28 年 第 67 回全日本中学校長会研究協議会宮城大会（仙台サンプラザホール）

第 35 回 平成 29 年 大崎市岩出山文化会館（スコーレハウス）

- (1) 「確かな学力」の定着と向上を目指す学校経営  
 ～校長のリーダーシップの在り方を通して～…………… 栗 駒 中 多 田 陽
- (2) 社会的・職業的自立のために必要な能力を育成する志教育の充実  
 ～地区コーディネーターの活用の在り方を通して～…………… 南 方 中 岩 渕 幸市
- (3) 「志教育」の充実を図る学校経営  
 ～本吉地区の実践～…………… 志 津 川 中 三 浦 馨

第 36 回 平成 30 年 登米市祝祭劇場（水の里ホール）

- (1) 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施  
 ～新たな地域連携を通して～…………… 鳴瀬未来中 伊東 毅浩
- (2) 確かな学力の育成を目指す学校経営  
 ～「学力向上に向けた 5 つの提言」の実践の充実を通して～… 小 野 田 中 橋元 伸二
- (3) 不登校問題とその対応…………… 宮 中 樋 口 浩  
 ……………… 金ヶ瀬中 品川 信一

第 37 回 令和元年 気仙沼市 はまなすの館

- (1) 次代の学校経営を担う人材の育成  
 ～人事評価等各種施策の活用を通して…………… 逢 限 中 小野寺昭人
- (2) 確かな学力の育成を目指す学校経営  
 ～「学力向上に向けた 5 つの提言」の実践の充実を通して～… 中 新 田 中 早坂 正紀

第 38 回 令和 2 年 （東部大会 ※誌上発表）

- (1) 「チーム学校」の実現を図る学校経営  
 ～学校・家庭・地域の特色を生かした連携・協働を通して…………… 松 岩 中 三 浦 馨
- (2) 不登校問題とその対応  
 ～子どもの心のケアハウスとの連携を通して…………… 宮 中 樋 口 浩

第 39 回 令和 3 年 （大河原大会 ※誌上発表）

- (1) より良い人間関係を構築し、自己実現を図るための自己指導能力を高める学校経営  
 ～みやぎの志教育の 3 視点「かかわる」「はたす」「もとめる」を生かした教育活動の推進をととして…………… 成 田 中 小 山 直 樹
- (2) コミュニティ・スクールの在り方と校長の役割  
 ～学校運営協議会の状況と実践事例の調査を通して…………… 東 和 中 千 葉 純 子

第 40 回 令和 4 年 TKP ガーデンシティプレミアム仙台西口  
 （第 72 回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会を兼ねる）

- (1) 自己の生き方を豊かにする道德教育の充実  
 ～質の高い教育活動の実践に向かう校長のリーダーシップの在り方…………… 志 波 姫 中 村 上 卓

第 41 回 令和 5 年 栗原文化会館（アポロプラザ）

- (1) 自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進…………… 鹿 折 中 亀 谷 寿 之  
 ……………… 新 月 中 宮 崎 明 雄
- (2) 人材育成・資質向上、働き方改革の推進…………… 船 岡 中 中 秀 司

第 42 回 令和 6 年 気仙沼中央公民館

- (1) よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実…………… 北 上 中 阿 部 一 彦
- (2) 次代の学校経営を担う人材の育成…………… みどり台中 高 橋 睦 子  
 ……………… 山 元 中 白 鳥 修

第 43 回 令和 7 年 マルホンまきあーとテラス

- (1) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成  
 ～教職員集団の総合力を高める校長の組織マネジメントの在り方…………… 色 麻 学 園 岩 渕 謙  
 …… 栗 駒 中 加 藤 純 一

## 第 43 回 宮城県中学校長会研究協議会東部大会役員名簿

- ◇ 大会会長 宮城県中学校長会会長 佐々木 晃（古川中）
- ◇ 大会副会長 宮城県中学校長会副会長 佐藤 仁（古川東中）  
（次期開催地区会長）
- 宮城県中学校長会副会長 村上 敬子（志津川中）  
（前年度開催地区会長）

### ◇ 大会実行委員

|        | 校長会役職         | 氏 名                                                         | 学校名                                              | 備 考                                                   |
|--------|---------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 実行委員長  | 東部地区会長        | 千葉 正人                                                       | 蛇田中                                              | 地区会長                                                  |
| 副実行委員長 | 東部地区副会長       | 福田 光一<br>二階堂順一郎                                             | 石巻中<br>佐沼中                                       | 地区副会長                                                 |
| 総務部    | 総務部長<br>総務部   | 平塚真一郎<br>佐藤 修二<br>佐藤 智哉<br>穴戸 雅治<br>熊谷 雅幸<br>三浦 美紀<br>千葉 和幸 | 湊中<br>稲井中<br>米山中<br>鳴瀬未来中<br>女川小・中<br>河北中<br>南方中 | 総務部長<br>石巻市幹事<br>登米市幹事<br>東松島市幹事<br>女川町幹事<br>会計<br>会計 |
| 編集部    | 編集部長<br>編集副部長 | 飯川 弘芳<br>和泉千佳子                                              | 豊里小・中<br>桃生中                                     | 情報部長<br>行財政部長                                         |
| 運営部    | 運営部長<br>運営副部長 | 阿部 一彦<br>高橋 禎毅                                              | 北上中<br>河南西中                                      | 県研究部長<br>研究部長                                         |
| 会場部    | 会場部長          | 佐々木 裕                                                       | 山下中                                              | 指導部長                                                  |



## 第 43 回 宮城県中学校長会研究協議会東部大会

---

発行日 令和 7 年 10 月 8 日（水）

発行者 宮城県中学校長会長 佐々木 晃

編集 東部大会実行委員会